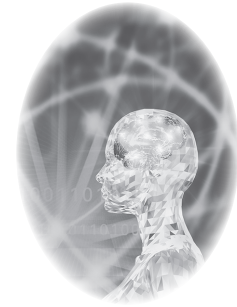


特集：本シェルジュがオススメする
ヒトや中小企業診断士の AI との付き合い方

第4章

AI時代のキャリア形成 ——仕事がなくなる？



三上 友美恵

東京都中小企業診断士協会城西支部

1. AI時代の到来

2017年1月25日、日本経済新聞社は人工知能（AI）を利用した完全自動の「決算サマリー」サービスを開始するとプレスリリースで発表しました。対象になる上場企業は約3,600社で、開示情報サイトで決算が発表されると、わずか数分でAIが決算分析を行い、自動で記事を書いて配信します。

決算サマリー公式サイト (<http://pr.nikkei.com/qreports-ai/>)。

AIのみで記事まで自動作成するのです。「決算記事は数字のミスは絶対に許されず、神経を使う仕事だが、AIには数字の間違いがほとんどない。決算速報をAIに任せることができれば、決算解説記事や企画記事、取材などによりマンパワーを振り分けられる」

（日本経済新聞社デジタル編成局・江村亮一編成部長談 /ITmedia）。

AP通信や米Yahoo!はすでにAIで記事を自動制作し、配信しており、英国ではスポーツ記事などデータを瞬時に分析するサービスにもAIが活用されています。

AI記者の増加に、人間の記者が職を奪われるようにも思えますが、AIが仕事を肩代わりすることによって、人間にしかできない仕事の精度を上げることが可能になると前向きに導入が進んでいます。

2. 専門職ほどAIに仕事を奪われる？

オックスフォード大学でAIの研究をしているマイケル・オズボーン准教授は「人間が行う仕事の約半分が機械に奪われる」と予測しています。オズボーン氏が「あと10年で消える職業」に挙げている職業には、意外なことに専門職が多いのです。弁護士や内科医などの高給専門職も失われると言っています。

専門職はなぜ、AIに仕事を奪われるのでしょうか。オズボーン氏は「最近の技術革新の中でも注目すべきはビッグデータです。これまで不可能だった莫大な量のデータをコンピュータが処理できるようになった結果、非ルーチン作業だと思われていた仕事をルーチン化することが可能になりつつある」と言います。

その結果、内科医が行う「医療診断」が、なくなる可能性のある仕事として挙げられています。実際、すでにニューヨークメモリアルスローンケタリングがんセンターがIBMと協業し、IBMのWatsonという人工知能型コンピュータを活用して、60万件の医療報告書、150万件の患者記録や臨床試験、200万ページ分の医学雑誌などを分析。コンピュータが患者個人々の症状や遺伝子、薬歴などをほかの患者と比較することで、それぞれに合った最良の治療計画を作ることに成功しています。

ビッグデータを分析し、最適な解を導き出す仕事はAIの真骨頂。公認会計士や内科医が高給取りなのは、専門職の知識と経験が必要な職業とされているからですが、AIに仕事を奪われるとなると、今後は目指す人が少なくなるかもしれません。

3. AIに奪われない職業

では、逆にAIに奪われない職業とはどんな職業なのでしょう。オズボーン氏はAIに奪われない職業は「クリエイティブな仕事」と定義しています。

「かつては洗濯は手作業で行っていましたが、洗濯機の登場でその仕事は奪われました。しかし、それによって余った時間を使って新しい技術や知恵が創造されました。こうして人類は発展してきたわけです。現在起きているのも同じことです。

ロボットやコンピュータは芸術などのクリエイティブな作業には向いていません。となれば、人間は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなことに集中できるようになるわけです。

人間がそうして新しいスキルや知性を磨くようになれば、これまで以上に輝かしい『クリエイティブ・エコノミー』の時代を切り開いていけるのです」とオズボーン氏は語っています。

よりクリエイティブな、人間にしかできない職業に必要な知識を得るためには、どういう教育をしていくべきでしょうか。

マッキンゼー・アンド・カンパニーの調査によると、機械や人工知能にも奪われないスキルがあるといます。0から1を作り出すこと、創造です。これは人間にしかできません。そして、人と人とのコミュニケーションです。

コミュニケーションを必要とする職業であるカウンセラーやコンサルタントは今後もAIに仕事を奪われないでしょう。

4. AI時代のキャリア形成

AIに奪われない職業が、創造力やコミュニケーションを必要とするならば、子どもの頃から必要となるスキルが身につく教育をしていく必要があるのではないのでしょうか。

AIが進化することで、これまでの「勉強ができる」という能力は人間には必要がなくなるため、受験勉強のような知識詰め込み型の教育は消えていき、代わって人間の個性を生かす教育が必要になってきます。

日本では「出る杭は打たれる」というイメージがあり、突出した個性よりも平均的な人間力が評価されることが多いように思います。目立つ個性はイジメや仲間はずれの要因になりやすいのです。

しかし、これからは「人とは違う」という部分をより伸ばしていき、さまざまな個性の人を理解して、相手の立場に立って考える教育を家庭・学校で意識して行っていく必要があります。そうすることで、AIに奪われないコミュニケーションスキルを身につけていくことができるでしょう。大学生・ビジネスマンがこれからのキャリア形成のために身につけるべきスキルもまた、同じことがいえます。

相手の言葉をよく聞き、理解する能力。それは中小企業診断士として必要とされる「コミュニケーションスキル」になります。中小企業診断士も専門知識が必要ではありますが、今後はより一層「コミュニケーションスキル」を磨いていく必要があるのではないのでしょうか。

5. AI時代は働き方を変えるのか？

三上：AI時代の到来によって、職がなくなるといいますが、それによって貧困が増加するということでしょうか。私はAI時代になったらもっと便利で豊かな社会になりそうな気がするのですが、安藤さんはどう思いますか。

安藤：私は豊かにもなると思いますが、貧富の差は大きい社会になっていくと思います。

三上：つまり、職に就けなくて生活に困る人が出るということでしょうか。

安藤：そうですね。AIや機械に置き換わるのは比較的単純でスキルを必要としない仕事が多いでしょうから、そういう単純作業のような職業自体がなくなってしまうと思います。逆にAI時代に適したスキルを身につけている人は、AI時代の豊かさを享受するため、職業が二極化される可能性が高いのではないのでしょうか。

三上：これから個人がスキルアップをしていけば、職を失うことにはならないのではないのでしょうか。

安藤：それはそうですが、そういう人はもうすでにスキルを身につけようとしているモチベーションの高い人たちですよ。それほど頑張らなくてもよいと思っている人は、職に就けなくなる可能性があると思います。

三上：職業の二極化といいますが、たとえば産業革命によって画期的に社会全体は豊かになったわけですね。産業革命のときは確かに労働者と資本家とで富の二極化が起っていたと思います。

しかし、それは社会全体で豊かになった富の再配分を誤っただけで、これからはその豊かさを社会に還元していけば、貧富の差は拡大しないと思います。安藤さんは「ベーシックインカム」という言葉を聞いたことがありますか。

安藤：社会論になってきましたね。先日テレビでキーワードだけ聞きました。それはどういう制度なのでしょう。

三上：収入の水準によらず、すべての人に無条件に、最低限の生活費を一律に給付する制度です。世帯ではなく、個人を単位として給付されるのが特徴で、18世紀から「国民配当」として提唱されているのです。

生活保護のような「選別主義的社会制度」ではないので、労働をしていてもして

いなくても、全国民が平等に同じ金額もらえるのです。日本では扶養控除の壁を気にして、労働時間を削減している話がよく聞かれます。本当はもっと働きたいのに、労働意欲を制度自体が損ねている仕組みになってしまっています。ベーシックインカムは労働意欲を損ねないという点で評価されている仕組みでもあるのです。

安藤：社会主義的な考え方で、たとえその仕組みを導入したとしても、職業の二極化は避けられないと思いますが、それに、もともと労働意欲が少ない人はますます意欲を失うことになるのではないのでしょうか。

三上：AI時代が到来して、職業が半分になってしまったら、その職に就いていた人たちは職を失ってしまうかもしれないでしょう。そうなると、一部の人が豊かになっても、結局財源不足で増税が行われたりして、豊かにはならないと思うのです。

今はAI時代が来るぞ、職を奪われるぞという暗澹たる未来ばかりが語られることが多いのですが、そういう危機感をただ煽るだけではなくて、ベーシックインカムのような社会保障制度もきちんと議論されて、AI時代に備えるべきだと思うのです。

安藤：三上さん、大変詳しいですね。何か情報源を持っているでしょう。

三上：さすが安藤さん。見抜かれましたね。実は、『人工知能と経済の未来 2030年雇用大崩壊』（文藝春秋）という本が元ネタです（笑）。

今回、AI時代って何だろう、AI時代になったら何が違って、何が起こるのだろうとさまざま調べましたが、大抵は将来の不安を煽るだけのものだったのです。

私は小心者なので、半分かくらいの人の職業がなくなると聞いて、どうしよう、もっと勉強してスキルを身につけないとだめかななどと思ってしまったのですが、この本を読んでいてAI時代の到来によって社会全体が豊かになるのだという視点を持つことができたのです。

安藤：そうなのですか。今度読んでみようかな。ところで話は元に戻りますが、社会全体が豊かになっても職に就けない人は、どういうスキルを身につけていくべきだと思いますか。

三上：『AI時代の人生戦略』というソフトバンク新書の中に、堀江貴文氏と成毛眞氏との対談が載っていますが、私はその対談を読んで自由な発想を生み出す人とは、どのようなことも「おもしろそう」とやってみる人なのだなと感じました。一言で言えば、お金を稼ぐための仕事ばかりやっているのではなくて、全力で遊びもやってしまうような人です。

対談の中で、早稲田大学のMBAにきている社会人に聞いたら、誰も拡張現実技術を利用したオンラインゲーム「Ingress」をやったことがないので、笑い話になっていたのです。さらに経営者会議に参加している人の8割が「ポケモンGO」をやったことがない。それなのに、そういった経営者がインターネットの未来を語ったりしていると指摘されていました。よくAI時代になって職を奪われないために発想力やコミュニケーション能力が必要だという話になりますが、仕事ばかりしていたらそういうスキルは身につかないと思うのです。

安藤：それはそうですね。中小企業診断士は本当にさまざまな個性を持った人たちが集まっているところが魅力ですね。自分が気になることはまずは試してみようという行動力のある人も多いですし、中小企業診断士の集まりは刺激を受ける場所になっています。

三上：私も中小企業診断士の集まりに参加すると、コミュニケーション能力がアップしていく実感があります。そういう人と人とのつながりはAIに決して奪われないものですから、これからもスキルを高める場にしていきたいと思います。

安藤：お、やっと三上さんと意見が合ったね。

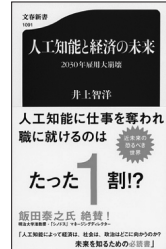
三上：じゃあ、その議論をもっと深めるために、おいしいお酒を飲みに行きましょう。

安藤：やっぱり。議論をしなくても三上さんは、最後はいつもそれではないですか（笑）。

人工知能と経済の未来

2030年雇用大崩壊
井上智洋 / 文藝春秋 / 2016年

2030年にはAIが人間の頭脳に追いついてしまう可能性がある。マクロ経済学者である著者は、AIによって奪われた労働はBIで補完するよう主張する。



AI時代の人生戦略

成毛眞 / SBクリエイティブ / 2017年

定型的な仕事しかできない人は使われる側、創造性を生かし社会的な知性を身につけた人は使う側に回る。日本屈指のイノベーターが、堀江貴文氏、鈴木寛氏と対談しながら残酷な5年後を見据えた人生戦略を説く。



三上 友美恵

(みかみ ゆみえ)
2013年中小企業診断士登録。株式会社ト
ーハんで書店営業として21年勤務。書店
の新規店・改廃業に100店舗以上携わる。
1日に8冊読める速読派。

